

辞書の使い方

今回の学習のポイント

- ① 辞書を引くのは何のため？
- ② 辞書を引くときの注意

辞書を引くのは何のため？

いつ辞書を引きますか。

わからない言葉があったとき？ 言葉の使い方を知りたいとき？
人によって、辞書を引く目的は違います。現在はインターネットなどで、わからない言葉などを、すぐに調べることができます。

では、なぜ本の辞書で引くのでしょうか。番組では三つの事例を通して考えていきます。

① たくさんの意味がわかる

〈例〉

「ひく」を辞書で引いてみます。「引く・退く・弾く・挽く…」

同じ読みで、さまざまな意味の語があることがわかります。

② 知らない語を知るきっかけになる

〈例〉

「比丘」を辞書で引いてみます。

辞書の順番で「引く」の次に掲載された言葉でした。

③ 言葉（語彙）が増えていく

私たちは、言葉を通してさまざまなことを認識しています。

②とも関連しますが、知らない言葉を辞書で引き、自ら使用していくことで語彙を増やすことができます。世界を知るための言葉（語彙）を増やしていくことで、私たちは世の中のことを今までよりも詳細に知ることができるのです。



国語監修・執筆

鈴木周太

辞書を引くときの注意

辞書は、掲載する語や順番を、一定のルールに従って決めています。次の例を考えてみてください。

〈例〉

「規約」と「客」。辞書に掲載されている順番で早いほうはどちらでしょう。

ひらがなにすると「きゃく」と「きゃく」。大きい文字（直音）のほうが、先に掲載されていそうですが……

実は、「規約」が先の辞書も「客」が先の辞書も両方あります。

ルールが違っていると、困惑してしまいます。そこで、辞書には、「こういうルールで掲載しています」という、辞書の使い方が載っています。「凡例、この辞典の決まりと使い方、細則」など辞書それぞれで言葉は違うものの、辞書の冒頭部分でルールが掲載されています。辞書によってルールが違いますので、辞書を引くときに自分が使っている辞書のルールを調べてみてください。

まとめ

聞いたことはあるけれど、意味はよくわからない。意味は知っていたけれど、他にどんな言い方があるのだろう。そんな言葉を知るきっかけにもなる辞書。家にあるけれど引いたことがないという人はぜひ引いてみてください。世の中のことを詳細に知るきっかけになると思います。